

1. 単元名 Unit3 Club Activities (New Horizon English Course 1 (東京書籍))

2. 単元について

本単元では、オーストラリア出身のメグが、シドニーにいる友達に日本の部活動について伝えるために、ビデオ撮影をしながらクラスメートにさまざまなことについて質問をする場面が展開する。

言語材料としては、where, when, how many の疑問文、want to ... の文で、前単元に引き続き基本的な疑問詞が含まれている。これらの疑問文も日常生活で多用されるものなので、様々な場面で繰り返し指導することで定着させたい。言語活動面では、本単元の部活動についての話題を自分たち自身に置き換えて表現したり質問したりする活動に展開することができる。また、質問に2文以上で答えることや、その答えに対するあいづち及びそれを受けての質問をする方法やその重要性についても指導し、より豊かなコミュニケーションの実現につなげたい。

3. 生徒の実態について

本校の生徒は、これまでの学習で、小学校で学んできた英語学習をベースに表現活動に取り組んできた。その中で、他者と英語でコミュニケーションを取ることに對して関心が高く、簡単な単語を用いて、自分自身のことを表現しようとする姿勢や、相手の話している内容を聞き取ろうとする姿勢が顕著に見られることが認められた。本単元においても、前単元までに学んできた表現を用いながら、生徒にとって身近な部活動や食事、学校生活全般について表現し合う場面を意図的に設定し、自然な内容や表現を用いた英語によるやりとりが行われるように促したい。また、疑問詞を使って相手に質問をすることで、これまで以上に細かな情報や詳しい説明などを伝え合うことができるようになるはずである。単文による、いわゆる一問一答の会話から、会話の流れを意識したやりとりが行われるよう、意図的に段階を踏んで指導にあたりたい。この際、「聞くこと」「話すこと」(音声による言語活動)に慣れて一方、「読むこと」「書くこと」(文字による言語活動)には慣れていないことを念頭に置き、特に「書くこと」と「話すこと」の指導がバランスよく行われることを意識したい。

4. 単元の指導について

(1) 全体研究との関わり (「主体的な学び」のプロセスモデル実現のための手立てについて)

①本単元における「主体的な学び」の姿

本単元において、主たる目標は「話すこと(やりとり)」である。疑問詞を用いた文を使えるようになることで、相手の様々な情報を引き出すことが可能となる。「会話」を学習活動として取り上げ、一定時間、会話を継続させることを目標とすることで、生徒の疑問詞の使用を促したい。目標達成のために「何を」相手に聞くか、「どのような」英語を使って相手に質問するか等と思いを巡らせる姿が見られることを期待する。そうした姿を本単元における「主体的な学び」の姿であるとする。

②本単元における「主体的に学習に取り組む態度」の評価

本単元では、パフォーマンス課題に向けて「スモールトーク」を帯活動として扱う。毎回の授業で、「スモールトーク」に2回取り組ませるが、1回目の取り組みが終わったところでフィードバックを意図的に仕組む。これは、生徒の発話をヒントに表現の幅を広げたり、会話が円滑に進まない生徒に手立てを講じたりするためである。仲間の発話や教師から与えられた表現を使って、毎回のパフォーマンスを向上させることを狙う。このサイクルは、全体研究で言うところの「遂行」「振り返り」「方略調整」にあたる。生徒はこうした学習のサイクルを経験し、パフォーマンス課題達成のための資質・能力を身につけていくと期待する。そして、2回目の「スモールトーク」を終えたところで、生徒たちには「振り返りシート」への記入をさせる。振り返りの視点を与え、自らのパフォーマンスの改善点を見つけさせたい。課題達成に向けて、何ができているのか、何が足りていないのか等について客観的に自分自身を見つめさせることで、「学習の調整」を促したい。また、記録の蓄積をすることで、課題達成までの過程を「見える化」し、どのように学習を積み重ねてきたのかということ指導者だけでなく学習者にも把握できるようにする。

(2) 教科研究との関わり (『伝える力』を育むための主体性を促す対話的な学習活動の工夫について)

①『主体的な学び』のプロセスモデルを意識した単元計画及び授業実践

生徒の主体的な学びを促すため、本単元においてもプロセスモデルを意図的に、計画に組み込む。また、一単位時間内においても、「帯活動」でプロセスモデルを意識した授業を展開する。特に、「遂行」後の「振り返り」によって、自己内省を促し、時には他者との交流を経て「方略調整」を行わせたい。具体的には、スモールトークの実践を通して、自身の課題を把握し、教師や他の生徒とのやりとりを通して解決の糸口を見出し、再度、スモールトークを実践するということである。こうしたプロセスを経験することで、課題解決のための見通しをもつことができるようになり、未知の問題にも自ら進んで取り組んでいけるようになると思う。

②「主体性」を評価するためのワークシート開発

前述の「主体的に学習に取り組む態度」の評価と同様

③「創造性」を発揮させるための学習活動の工夫

多様な人々と協働しながら新たな価値を創る「創造性」を育むために、本単元においても、よりよい人間関係づくりや円滑なコミュニケーションの取り方などを学ばせたい。対話においては、相手意識や配慮が大切であるという意識を持たせるだけでなく、相手の発言を促したり、情報を引き出す方法について、実際の会話を通して見出せるように授業を展開する。

5. 単元の目標

日常的な話題について、疑問詞を適切に用いて相手に質問したり簡単な語句や文を用いてそれに答えたりして、相手のことをよりよく知ったり自分のことをより詳しく伝えたりすることができる。

山梨大学教育学部附属中学校版 CAN-DO リスト（新学習指導要領対応）との関連

	話すこと（やりとり）
1年生	○自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。

6. 単元の評価および指導計画

(1) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> ①疑問詞 where や when , I want to ... , How many ...? を用いた文の形・意味・用法を理解している。 <技能> ②学校生活や部活動について、疑問詞 where や when , I want to ... , How many ...? などを用いて、場所や時間などの詳細な情報を即興で伝え合う技能を身につけている。	日常的な話題についてお互いのことをよりよく知るために、学校生活や部活動について、簡単な語句や文を用いて場所や時間などの詳細な情報を即興で伝え合っている。	日常的な話題についてお互いのことをよりよく知るために、学校生活や部活動について、簡単な語句や文を用いて場所や時間などの詳細な情報を即興で伝え合おうとしている。

※各観点の名称については、記述の便宜上、以下のようにする。

知識・技能：ア 思考・判断・表現：イ 主体的に学習に取り組む態度：ウ

(2) 評価方法

①スモールトークにおける振り返りシート（Google Workspace 上での Google Spreadsheet の活用）

- 単元の途中に行うスモールトークの振り返りをさせることにより、パフォーマンス課題に向けて「粘り強く」学習に取り組む姿勢や「自己調整」している様子を指導者だけでなく学習者本人も把握できるようにする。クラウド上のサービスを活用し、振り返りシートをデジタル化することによって生徒教師間のやり取りを簡略化させ、提出状況を容易に確認できるようにした。また、教師から適宜コメントを返すことにより、振り返りの観点を学習者に気づかせたり振り返りの精度を高めたりすることが可能となる。さらに、他者の振り返りを共有することで、様々な振り返りの視点の気づきを促すことができると考える。

②ルーブリックを用いたパフォーマンス評価

- パフォーマンス課題を評価するための規準として、パフォーマンスの正確さ及び適切さについてルーブリックで示すことにより、単元の学習を通して「何ができるようになる」のかということについて、また、課題をクリアするためには「何を意識して学習活動に取り組めばよい」のかということについて指導者だけでなく学習者にも把握できるようにする。さらに、パフォーマンス評価をすることによって、単元の学びを通して身に付けた資質・能力を見取ることができると考える。

(3) 指導計画（全 10 時間）

時間	○ねらい ・学習活動	評価規準	主体的な学びのプロセスモデル	評価方法
1	○疑問詞 where の形、意味、形式を理解し、運用することができる。 ・疑問詞 where を用いたコミュニケーション活動	ア① ア②		活動の観察 振り返り スプレッドシート
2	○疑問詞 when の形、意味、形式を理解し、運用することができる。 ・疑問詞 when を用いたコミュニケーション活動 ・Unit3 part1 の本文内容理解	ア① ア②		
3 本時	○既習表現を用いて、場面に応じた適切な英文を書くことができる。 ・Unit3 part1 の本文をアレンジし、オリジナルスキットを作成する。	イ	遂行	Google Classroom

4	○want to ...の形、意味、形式を理解し、運用することができる。 ・ want to ...を用いたコミュニケーション活動 ・ Unit3 part2 の本文内容理解	ア① ア②		
5	○既習表現を用いて、場面に応じた適切な英文を書くことができる。 ・ Unit3 part2 の本文をアレンジし、オリジナルスキットを作成する。	イ	振り返り	
6	○How many ...?の形、意味、形式を理解し、運用することができる。 ・ How many ...?を用いたコミュニケーション活動 ・ Unit3 part3 の本文内容理解	ア① ア②		
7	○既習表現を用いて、場面に応じた適切な英文を書くことができる。 ・ Unit3 part3 の本文をアレンジし、オリジナルスキットを作成する。	イ	遂行 振り返り	
8	○場面や状況に合わせて、適切なオリジナルスキットを書くことができる。 ・ ペアで協力して、オリジナルスキットを作成する。	イ ウ	方略計画 遂行	活動の観察 オリジナル スキット
9	○場面や状況に合わせて、適切なオリジナルスキットを書くことができる。 ・ ペアで協力して、オリジナルスキットを作成する。	イ ウ	振り返り 方略調整	
10	○聞き手を意識して、オリジナルスキットを適切に音読することができる。 ・ ペアで作成したオリジナルスキットを発表し合う。	イ ウ	遂行	
後日	○適切な語句や文を用いて、相手のことをよりよく知ったり自分のことを詳しく伝えたりすることができる。 ・ 生徒同士または ALT とスモールトークを行う。	イ ウ	全体の振り返り	パフォーマンス テスト

オリジナルスキットについて

(1) 内容

ペアで協力し、提示された場面に合うように、2人の対話文を書く。

(2) 課題

次のようなあらすじになるように、最初と最後の文に繋がるような2人の会話を考え、対話文を作りなさい。
「友人2人が食事に行く話をしています。お互いの食べたいものを話し、駅の近くにあるレストランに行くことに決めました。」
(最初の文) It's almost noon.

(最後の文) Let's go!

(3) 評価の基準 (ルーブリック)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りがなく正しく疑問詞を用いた文が書かれている。	好きな食べ物について話され、自然な流れになるような対話文が書かれている。	課題に取り組む様子を観察し、個人内評価として扱う
b	誤りがあるが、コミュニケーションに支障のない程度で疑問詞を用いた文が書かれている。	自然な流れではないが、好きな食べ物について話されている対話文が書かれている。	
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	

パフォーマンステストについて

(1) 内容

生徒同士または ALT とのスモールトークを行い、相手の好きな食べ物やお気に入りのレストランなどについて即興で伝え合う。

(2) 課題

友達または ALT と「好きな食べ物」について話しなさい。自分も相手も共通して好きな食べ物があった場合は、一緒に食事に行く約束をしなさい。

(3) 評価の基準 (ルーブリック)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りがなく正しく疑問詞を用いて質問したり、食べたいものや行きたい場所について伝えたりしている。	自分の好きな食べ物について話し、相手の好きな食べ物について情報を引き出している。	自分の好きな食べ物について話し、相手の好きな食べ物について情報を引き出そうとしている。
b	誤りがあるが、コミュニケーションに支障のない程度で疑問詞を用いた文を用いて質問したり、食べたいものや行きたい場所について伝えたりしている。	相手の好きな食べ物について情報を引き出していないが、自分の好きな食べ物について話している。	相手の好きな食べ物について情報を引き出そうとしていないが、自分の好きな食べ物について話そうとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

本時の授業について

- (1) 日時： 令和3年6月15日 (火)
- (2) 授業学級：第1学年3組
- (3) 場所： 第1学年3組教室
- (4) 本時のねらい： 既習表現を用いて、場面に応じた適切な英文を書くことができる。
- (5) 展開

過程	学習活動	教師による支援	主体的な学びのプロセスモデル
挨拶 (2)	あいさつをする 教師と簡単な会話をします	英語を話す雰囲気づくりをする 生徒と簡単な対話をします	
導入 (3)	本時の学習活動を確認する スモールトークの目標を確認する	スモールトークのトピックを提示する 目標を確認する ・ペアで1分30秒間、会話を継続させる ・相手から多くの情報を引き出す	【目標設定】
活動① (15)	スモールトーク (1回目) に取り組む	計時 (1分30秒) をする 机間指導を行いながら、生徒が使っている表現やメジャーエラーを把握する	【遂行】
	目標を達成できたかどうかを振り返る	スモールトーク内で用いた表現について確認をする	【振り返り】
	スモールトークの中で使った表現を確認する	会話を継続させるためのポイントを確認する	【方略調整】
	スモールトーク (2回目) に取り組む 振り返りを行う <Google Classroom> (ICT の活用)	計時 (1分30秒) をする 机間指導を行いながら、生徒が使っている表現やメジャーエラーを把握する 情報端末の操作が円滑に行えていない生徒のサポートをする	【遂行】 【振り返り】
活動② (25)	本時の活動を把握する	本時の活動について説明する	
	4人グループで協力して、Unit3 part1 本文に6文を追加して、オリジナルスキットを作る Jamboard を活用し、4人グループでオリジナルスキットを作成する <Google Classroom> (ICT の活用)	情報端末の操作が円滑に行えていない生徒 (グループ) のサポートをする	【遂行】
まとめ (5)	完成したオリジナルスキットを提出する	課題の提出方法について確認する 課題が終わっていないグループは、家庭学習で取り組むように伝える	

【 】内の記述は、本校の全体研究における「主体的な学びのプロセスモデル」

参考文献

国立教育制作研究所 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (令和2年)